

あなたは専業主婦ですか？

平成11年、男女共同参画社会基本法が国において制定され、早くも5年が経ちました。この間、各地で条例の整備が進むなど、男女間の差別や格差解消に向けての取り組みが続けられています。

しかし、私たち一人ひとりの意識についてはどうでしょうか。社会に出て働く女性は年々増加し、経済的に男性に依存する生き方からの自立は進んでいます。反面、長い間、専業主婦のように、一家の収入の担い手を陰で支えてきた女性の存在も大きいのです。

専業主婦というのは、「男は仕事」「女は家事・育児」という性別役割分業のなかで、結婚を境にして女性だけが担う特有の形態です。

専業主婦と働く女性では立場の違いから、愛情を選ぶか、お金を取るか、というような極端な議論にもなりがちです。

そして、このことが女性同士の対立を生んだり、必要な一致団結への妨げになったりして、男女共同参画社会実現の弊害となっていることも見逃せません。

年金改革や扶養控除の見直しにみられるように、専業主婦の立場は、今後、厳しくなることが予想されます。

専業主婦の現状と今後について探りました。



かれんと

No.25

2004.9.10

Current:カレント

時代の流れあるいは
新しい潮流

主な内容

- ・あなたは専業主婦ですか？
- ・アンケート結果
- ・まとめ
- ・地区別懇談会
- ・ひとくちメモ
- ・編集後記

※「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。

既婚女性500人にアンケート

かれんと編集部は専業主婦についてのアンケートを実施しました。(回収率 86.6%)

Q) あなたは専業主婦ですか？

はい 40.0%	いいえ 60.0%
----------	-----------

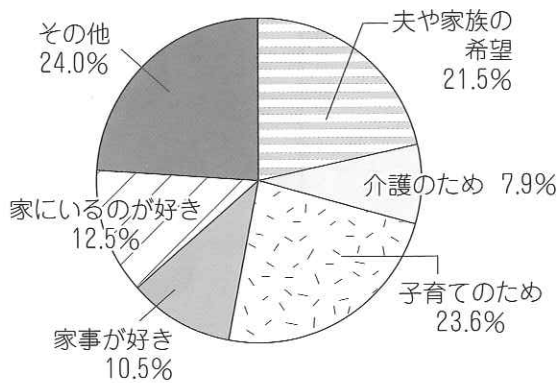
アンケートの結果では、専業主婦よりも働く女性の方が多く見られました。

Q) 今後も専業主婦でいたいですか？

はい 54.3%	いいえ 45.7%
----------	-----------

専業主婦で、今後も専業主婦でいたいという女性は54.3%と半数を占めています。

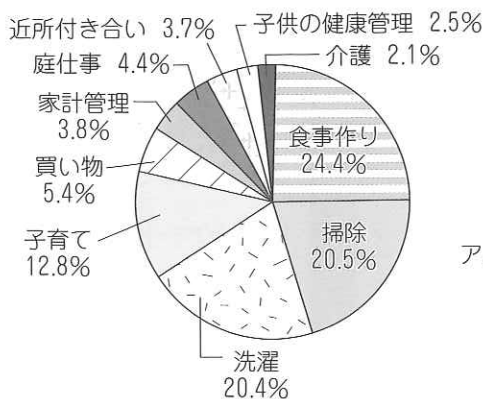
Q) 専業主婦を選んだ理由は何ですか？



「子育てのため」「夫や家族の希望」「介護のため」を合わせると53.0%でした。また、「家にあるのが好き」と「家事が好き」で23.0%になりました。

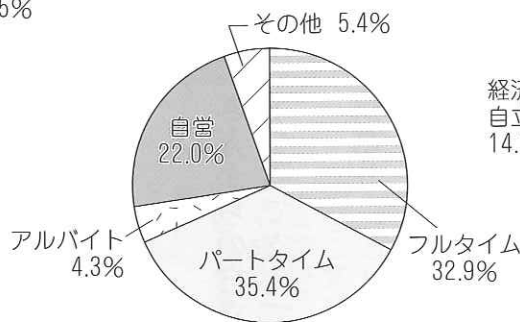


Q) 専業主婦の主な仕事は何ですか？



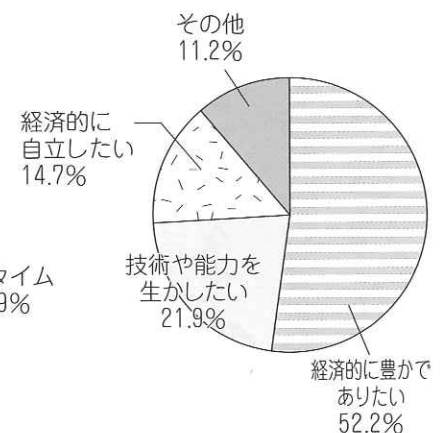
食事作り、掃除、洗濯、子育てと、主な4項目で78.1%という結果になりました。

Q) 働く女性の就労の形態は？



働いている人の多くは「パートタイム」「フルタイム」「自営業」の順であり「アルバイト」は少なくなっています。

Q) 働く女性の就労の目的は？



52.2%と半数の人が「経済的に豊かでありたい」と答えています。ついで、「技術や能力を生かしたい」が21.9%「経済的に自立したい」14.7%の順となっています。

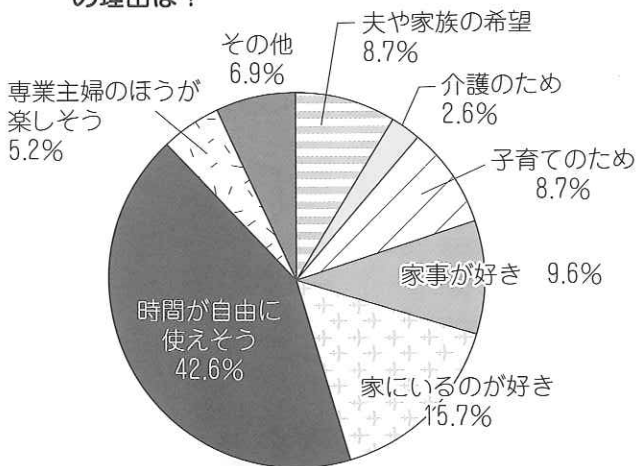
Q) 働く女性の方に聞きました。経済面などの事情が許せば、専業主婦になりたいですか？

はい 32.2%	いいえ 67.8%
----------	-----------

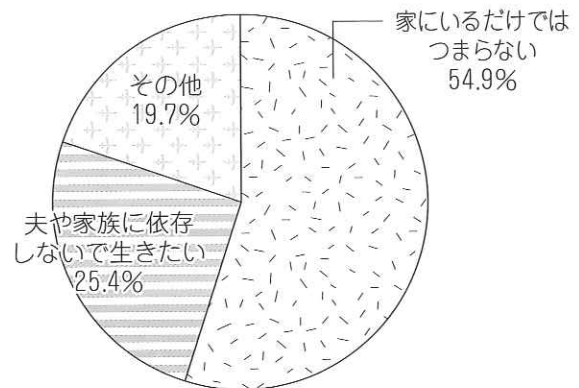
経済面が許しても、専業主婦になりたくない人が67.8%います。



Q) 働いている女性で経済面の事情が許せば専業主婦になりたいと答えた人の理由は？



Q) 働いている女性で経済面が許しても専業主婦になりたくないと答えた人の理由は？



「家にいるだけではつまらない」54.9%、ついで「夫や家族に依存しないで生きたい」が25.4%を占めています。「その他」19.7%の理由には自分を磨きたい、自分らしく生きたい、メリハリを付けたい、社会とのかかわりを持ちたい、自己実現をしたい等があげられています。

※質問によっては、無回答等もあり、調査人数とそれぞれの率は必ずしも合致していません。

あなたは専業主婦ですか？ まとめ

市内の20歳代から70歳代以上と幅広い年齢層の既婚女性500人に対し、「専業主婦」に関するアンケートを実施しました。

その結果、専業主婦が40%で、全国調査による専業主婦の割合55.2%(2001年・総務省「労働力調査特別調査」による)を下回りました。むしろ、フルタイム・パート・自営・アルバイトなど何らかの形で働いている女性の方が60%と多くなっていることが分かります。

1955年、サラリーマン世帯の妻の75%が家事労働に専念する専業主婦でしたが、1988年には50%を割りました。家庭用電化製品の普及や少子化、女性の高学歴化など社会情勢の変化に加え、女性が社会での自己実現を求める欲求の高まりもあります。

調査では、専業主婦を選んだ理由の多くが家族の希望や要求とあり、主婦の主な仕事は食事作り、掃除、選択、育児など家族の身の回りの世話であることを挙げていることと考え合わせれば、女性が性別役割分業として、ある時代から引き受けてきた立場を今も引きずっている姿が見えてきます。

現在は専業主婦ですが、今後続ける気がないと答えた人が半数近くいます。また、働く女性の68%が経済的に困らなくても専業主婦になりたいとは思わないと答え、専業主婦に対する女性の評価は変化していることがうかがえます。

現代社会は、女性・男性にかかわらず、健全な家庭を基盤として社会にも貢献することが求められています。ワークシェアリングを進めるなど、仕事でも家庭でも、男女ともに分かち合う発想が、女性特有な立場と対立を解消する鍵になるのではないのでしょうか。

●ひとくちメモ●

ワークシェアリング (work-sharing)



ワークシェアリングとは、労働者1人当たりの労働時間を短くして雇用機会を増やそうという考え方です。企業が必要とする仕事量は、1人当たり労働時間と労働者数の積で得られます。すなわち、延べ労働人数に時間をかけたものが仕事量です。そこで、労働時間を短くすると必要な労働者数を増やす事ができるわけです。

たとえば、1,000台の製品を作るのに、1日10時間労働で20人が必要だとすると、労働時間を8時間に短縮することで25人の労働者が必要になります。もともと、こうした提案は、労働組合側が雇用保障のために主張してきたところでした。平成12年の春闘では経営側が給与カットを伴うワークシェアリングによる雇用安定を提案して注目されました。



2002「現代用語の基礎知識」より

第20回地区別懇談会開催



▲加蘇地区の懇談会

活発な意見交換がされる

「男女共同参画社会をめざす地区別懇談会」

「今までの結婚・自治会・高齢者介護。これからの結婚・自治会・高齢者介護」をヒントに、グループに分かれ話し合いを行いました。

話し合いでは、これからの社会を築いていく中で、相手を性の違いで縛るのではなく、互いの個性を認め合いながら、それを伸ばしつつお互いが満足できる日常を作り上げていくことの大切さに気づかされるなど、活発な意見交換がなされました。

加蘇地区自治会をはじめ、関係団体の協力を得て、有意義な懇談会になりました。

9月には、西大芦地区、板荷地区、東大芦地区が開催する予定です。

7月27日、鹿沼市女性団体連絡協議会が中心となり、加蘇地区を皮切りに男女共同参画社会をめざす地区別懇談会が開催されました。

懇談会は、女団連の役員による寸劇

編集後記



捕えどころのなかった「専業主婦」ですが、アンケートの考察をするに従って、ほとんどの時間を家族のために使っていることに気づかれました。

最近の女性は、それに対して疑問を感じつつ現実の中では、そうせざるを得ない状態であることもうかがえます。